学校番号	3009

令和８年度　数学科

教科	数学科	科目	数学Ⅰ	単位数	３単位	年次	１年次
使用教科書	『改訂版　最新　数学Ⅰ』（数研出版）						
副教材等	『改訂版　教科書傍用 3ROUND 数学Ⅰ』（数研出版） 『新版　ネオパネル数学Ⅰ』（第一学習社）（総合募集の専科） 『改訂版　書き込み式シリーズ新課程[標準]教科書傍用 Study-Up ノート数学Ⅰ』（数研出版）（工学系大学進学専科）						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

・問題を、まず自分で解いてみましょう。ただ答えを求めるのではなく、途中式や考え方も書くようにしましょう。また、各自で答え合わせをしてください。答え合わせは、赤ボールペンで、間違えた箇所が分かるようにしてください。解答をしっかりと見て答え合わせをすることは、自分がどこでつまずいたかを知るために大切なことです。
・家庭学習における課題を、定期的に提出してもらいます。最後まであきらめずに取組みましょう。

2　学習の到達目標

数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を育成し、さらに、思考の過程をわかりやすく、他者に伝える表現のしかたを身に付けることをめざします。また、数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性を養います。

3　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	数と式、図形と計量、２次関数及びデータの分析についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。	命題の条件や結論に着目し、数や式を多面的にみたり目的に応じて適切に変形したりする力、図形の構成要素間の関係に着目し、図形の性質や計量について論理的に考察し表現する力、関数関係に着目し、事象を的確に表現してその特徴を表、式、グラフを相互に関連付けて考察する力、社会の事象などから設定した問題について、データの散らばりや変量間の関係などに着目し、適切な手法を選択して分析を行い、問題を解決したり、解決の過程や結果を批判的に考察し判断したりする力を養う。	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度、さらに、わかりやすく、他者に伝えようとする工夫や、その創造性の基礎を養う。

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
前期	第1章　数と式	第1節数と式 1.多項式 2.多項式の加法･減法･乗法 3.展開の公式 4.式の展開の工夫 5.因数分解 6.いろいろな因数分解	a：乗法公式、因数分解の公式の意味や複雑な式が簡単に帰着できることを理解するとともに、式を目的に応じて変形することができる。 b：学習した計算方法によって、式を多面的に考察することができる。 c:単項式、多項式とその整理の仕方に関心をもち、考察しようとする。展開と因数分解の関係に着目し、因数分解の検算に展開を利用しようとする。式の特徴に着目して複雑な式の因数分解に取り組もうとする。	確認ﾃｽﾄ 定期考査	確認ﾃｽﾄ 定期考査	ノート･プリントチェック 授業態度の観察
		第2節実数 7.実数 8.根号を含む式の計算	a：数を実数まで拡張することの意義や実数が数直線上の点と１対１に対応していることを理解するとともに、簡単な無理数の計算ができる。 b：分数が有限小数や循環小数で表される仕組みを考察できる。自然数、整数、有理数、実数の各範囲で、四則計算について閉じているかどうかが考察できる。実数が数直線上の点として表されることを考察できる。平方根の性質、平方根の積と商などについて、一般化して考察できる。 c：今まで学習してきた数の体系について整理し、考察しようとする。循環小数を分数で表す方法に興味・関心をもつ。	確認ﾃｽﾄ 定期考査	確認ﾃｽﾄ 定期考査	ノート･プリントチェック 授業態度の観察

		第3節一次不等式 9.不等式 10.不等式の性質 11.1 次不等式の解き方 12.連立不等式 13.不等式の利用	a：１次不等式の解を求めることができる。 b：不等式の理解を深め、式を多面的に捉えて問題を考察することができる。日常の事象や社会の事象などを数学的に捉え、１次不等式を問題解決に活用しようとしている。 c：不等式の性質から、１次不等式や連立不等式の解法を考察しようとする。身近な問題を、１次不等式を用いて解決しようとする。	確認ﾃｽﾄ 定期考査	確認ﾃｽﾄ 定期考査	ノート・プリントチェック 授業態度の観察
		課題学習①	a：身近な事象を数学化したり、数学的に解釈したり、表現したりする技能を身に付けるようにする。 b：身近な事象を数学的に捉え、問題の解決に役立てることができる。 c：問題解決の過程を振り返って事象の数学的な特徴や他の事象との関係を考察しようとしている。	提出課題	提出課題	提出課題 振り返りシート 生徒観察
	第2章　集合と命題	1.集合と部分集合 2.共通部分、和集合、補集合 3.命題と集合 4.命題と証明	a：集合と命題に関する基本的な概念、原理・法則などを理解し、知識を身に付けている。 b：ベン図などを用いて集合の考えを論理的に考察し、簡単な命題の証明について考察することができる。 c：ド・モルガンの法則に関心をもち、考察しようとする。条件を満たすものの集合の包含関係が、命題の真偽に関連していることに着目し、命題について調べようとする態度がある。日常語の「かつ」「または」との関連を認識しようとする。	確認ﾃｽﾄ 定期考査	確認ﾃｽﾄ 定期考査	ノート・プリントチェック 授業態度の観察

	第3章　2次関数	第1節2次関数とグラフ 1.関数 2.関数とグラフ 3.$y = ax^2$のグラフ 4. $y = ax^2 + q$のグラフ 5. $y = a(x - p)^2$のグラフ 6. $y = a(x - p)^2 + q$のグラフ 7. $y = ax^2 + bx + c$のグラフ 8.2次関数の最大･最小 9.2次関数の決定	a：２次関数の値の変化やグラフの特徴について理解しており、平行移動を利用して２次関数のグラフを描くことができる。 b：２次関数の式とグラフについて、コンピュータなどの情報機器を用いて描くなどして、多面的に考察することができる。２次関数とそのグラフの性質や特徴について関心をもち、それらを２次関数の考察に活用しようとしている。 c：身近な問題を、２次関数の最大･最小の考えを活用して解決しようとする。２次関数の決定条件に興味、関心をもち、考察しようとする。	確認ﾃｽﾄ 定期考査	確認ﾃｽﾄ 定期考査	ノート･プリントチェック 授業態度の観察
後期		第2節2次方程式と2次不等式 10.2 次方程式 11.2 次関数のグラフと x 軸の共有点 12.2 次不等式 13.2 次不等式の利用	a：２次関数のグラフと関数の値の変化における基本的な概念を理解し、最大値や最小値、２次方程式、２次不等式の解を求めることができる。 b：日常の事象や社会の事象などを数学的に捉え、問題を解決したり考察することができる。２次関数とそのグラフを用いることの有用性を認識し、値の変化や２次方程式、２次不等式の考察に活用しようとしている。 c：２次方程式がどんな場合でも解けるように、解の公式を得て、それを積極的に利用しようとする。身近な問題を、２次不等式を用いて解決しようとする。	確認ﾃｽﾄ 定期考査	確認ﾃｽﾄ 定期考査	ノート･プリントチェック 授業態度の観察

	第4章　図形と計量	第1節三角比 1.鋭角の三角比 2.三角比の利用 3.三角比の相互関係 4.三角比の拡張 5.三角比が与えられたときの角	a：鋭角の三角比の意味と相互関係を理解し、他の三角比の値や鈍角の三角比の値を求めることができる。 b：図形の構成要素間の関係を三角比を用いて表現するとともに、三角比の性質や相互関係を考察することができる。三角比を用いて直接測ることのできない長さや角度が求められることに関心をもち、事象の考察に活用しようとしている。 c：直接測ることのできない距離などの求め方を考えようとし、具体的な事象を三角比の問題として見ることができる。	確認ﾃｽﾄ 定期考査	確認ﾃｽﾄ 定期考査	ノート・プリントチェック 授業態度の観察
		課題学習②	a：身近な事象を数学化したり、数学的に解釈したり、表現したりする技能を身に付けるようにする。 b：身近な事象を数学的に捉え、問題の解決に役立てることができる。 c：問題解決の過程を振り返って事象の数学的な特徴や他の事象との関係を考察しようとしている。	提出課題	提出課題	提出課題 振り返りシート 生徒観察
	第4章　図形と計量	第2節正弦定理・余弦定理 6.正弦定理 7.余弦定理 8.三角形の面積 9.図形の計量	a：正弦定理、余弦定理を理解し、それを用いて平面図形や空間図形の計量をすることができる。 b：図形の構成要素間の関係に着目し、日常の事象や社会の事象を数学的に捉え、問題を解決したり、考察することができる。正弦定理や余弦定理の有用性を認識し、平面図形や空間図形の計量に活用しようとしている。 c：日常の事象や社会の事象などに正弦定理や余弦定理を活用しようとする。	確認ﾃｽﾄ 定期考査	確認ﾃｽﾄ 定期考査	ノート・プリントチェック 授業態度の観察

	第5章　データの分析	1.データの整理 2.データの代表値 3.データの散らばり 4.データの相関 5.相関係数 6.分割表 7.仮説検定の考え方	a：データの分析における基本的な概念、原理・法則などを理解し、分散及び標準偏差などの知識を身に付けている。散布図を描く、相関係数を求めるなどの技能を身に付けており、それらの意味を理解している。 b：散布図や相関係数などを用いてデータの傾向を捉え、それらを的確に表現することができる。分散及び標準偏差、散布図や相関係数などを用いてデータの傾向を把握し、事象の考察に活用しようとしている。 c：データを整理して全体の傾向を考察しようとする。	確認ﾃｽﾄ 定期考査	確認ﾃｽﾄ 定期考査	ノート・プリントチェック 授業態度の観察

※表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度